

令和 6 年 4 月 12 日

浜田市議会議長

笹田 卓 様

議員名 牛 尾 昭

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 令和 6 年 4 月 4 日 (本) : ~ :
2. 研修内容 庄内から始まる農学革命  
～日本が将来の食料基地になる未来～
3. 研修先 スマート・テクノロジー協会
4. 調査経費 1,000 円  
(経費内訳 円、 円 )
5. 調査研究活動の概要



## 演 題：庄内から始まる農業革命～日本が将来の食料基地になる未来へ～

日 時：令和6年4月4日 19～21時（オンライン）

研修先：スマート・テロワール協会

講 師：全国農業法人協会代表 齊藤一志 氏

進 行：日本総研上席研究員 藻谷浩介 氏

### 齊藤氏（67歳）

現在、三つの会社の代表で社員10人で年商10億円、作業は、アウトソーシングしていて、外注である水田面積21ha、麦畑面積17ha、養豚種豚130頭、全体で1300頭である。

- ① 参加農家80戸で700haの水稲栽培面積、玄米で(株)庄内こめ工房に出荷一部を(有)田和楽で乾燥調整を委託、その米を庄内へ燻炭販売、(株)庄内は、さらに、加工米・飼料米・玄米に分けて(外食・商社畜産農家)に売り渡す。
- ② 庄内はいづみ農産に委託販売をし、いづみ農産は、消費者に精米として販売する。(株)庄内は(株)まいすたあに玄米を売り、以下(株)まいという。(株)まいは、(生産・加工・小麦・販売)をし、消費者へは、ふるさと納税対応を図る。(小売り 外食産業)へは、もち、精米、小麦の販売をする。残りの米は、海外に輸出している。2022年は、カリフォルニア米が日本産より高い。現在、香港へは20トン、酒田港から出している米は、600トン、33%が輸出である。
- ③ 飼料米が今年度から補助金削減になるので、輸出米に転換を考えている。小麦については、令和2年度から、耕作放棄地で栽培している。可変施肥対応で多収を目指している。乾田直播で省力化である。機械は、日本製はダメで、外国製である。国が年間480万トン輸入して国産は85万トン政府が国家貿易(SBS)方式で国産小麦は35円、北海道産は70円、輸入小麦は68円で国が2、3ヶ月保管して出している。
- ④ 水稲栽培方式は、30アールを7枚で1枚、つまり、21haを一区画とし、種もみを機械で植えもう一台でならしていく。2時間で作業が終わる。田植えはしない。手間をかけないが、収量は変わらない。

### 今後の課題

一平野部の水田は全て水稲を作付けし、主食米と輸出米にし残りは飼料米にする。中山間地の田んぼは、畔ぬきして傾斜を作り畑地にする。小麦・大豆・そば・ジャガイモ・トウモロコシ・玉ねぎを栽培して連作障害を回避する。日本の小麦の反収は世界一である。小麦は、もっと作れるけど買ってくれない。食料危機を迎える中で、もっと作るべきである。やがて、主食が米から麦に代わる。

### 考察

目から鱗が落ちるとはこのことである。水稲栽培農家が高齢化で、食料危機が来るのではと心配していたが、齊藤氏によれば、以上報告のとおり、水稲とその他の作物の生産を分けて行えば、国民が飢えることはないし、飼料も国内調達出来る。精米販売は、高い海外出荷で農家が潤う。確かに、日本の未来は明るい。納得した。

以上報告します。 牛尾昭